

成果報告会

国際会議の開催効果拡大実証事業

事務局

令和7年2月12日

■ 本日の報告のポイント

- 1) 開催効果拡大のためのキーワードは「連携」
- 2) 実証事業の成果と課題
- 3) ニーズと課題を踏まえた今後必要な取り組み

1 本事業の特徴

■ 開催効果実証事業のミッション

開催が予定される国際会議を対象に新しい発想での連携の仕組みを構築するための実証を行い、**連携・交流の先駆モデルの創出**を図る
また、フォローとしてこれらの連携に関する効果的な手法について調査検討を行い、その情報、ノウハウを国全体で共有していくことを目的とする

■ 募集対象

都市間の連携や多様なステークホルダーとの**連携を通じ、開催地外への誘客やビジネス交流の創出等**といった、開催効果を拡大させるための**新規性の高い取組**を提案・実施する国際会議

連携

広域連携（Ⅰ型）

※主に広域エクスカージョン

企業・地域産業連携（Ⅱ型-①）

※主にビジネスマッチング

学生・市民連携（Ⅱ型-②）

※主に次世代の参加や市民との交流

29件の国際会議で実施された**具体的な取組事例** ※太字：特に効果が高かったと思われる事例

分類		具体的な取組事例	件数
I型	広域連携	<ul style="list-style-type: none"> ●開催地外へのエクスカーション（＝広域エクスカーション） ●開催地外でのサテライト会議（二都市開催・開催期間外の実施を含む） ●開催地外でのバンケット（ツアー後に実施） ●開催地外の自治体の紹介展示・PR（同県内別地域を含む） ●開催地外の郷土芸能・文化遺産等の紹介（地域文化資源の活用） 	22
II型	① 企業・地域産業連携	<ul style="list-style-type: none"> ●企業へのテクニカルビジット ●企業とのネットワーキング・ビジネスマッチング ●会議内でスタートアップ企業による自社事業プレゼン ●企業展示・デモンストレーション ●地元企業参加者を対象とした技術セミナー ●地域産業の協力を得たツアー・バンケット ●地域の物産展示即売・物産紹介 ●地域の文化・伝統工芸を学ぶワークショップ 	13
	② 学生・市民連携	<ul style="list-style-type: none"> ●学生を招待したワークショップ ●学生によるポスターセッション・アワード授与 ●学生によるMICE運営参画 ●市民参加のセミナー・ワークショップ ●会議参加者と地元の子供たちの交流企画 	7
III型	その他新規性の高い取組	<ul style="list-style-type: none"> ●サステナブルなMICE運営・会議運営の環境負荷最小化の取組 ●観光関連事業者に対するハラル講習会の実施と会議での飲食提供 ●MICE人材育成・運営・事前事後研修（MICE人材バンク設立） ●CBによる自主的なサテライト会議・FAMトリップの主催 ●観光事業者に対するLGBTQツーリズムに関する講演会 	5

2 実証事業の概要

○実証事業の募集対象

都市間の連携や多様なステークホルダーとの連携を通じ、開催地外への誘客やビジネス交流の創出等といった、開催効果を拡大させるための新規性の高い取組を提案・実施する国際会議

※「日本国内にて2日間以上での会期で開催され、少なくとも日本を含め3つの国/地域から50名以上の現地参加を見込む国際会議における実証を行い、本募集要項に記載されている事項を全て承諾の上、実施できる当該国際会議の主催者」及び、「国際会議の誘致・開催支援活動をするコンベンションビューロー等もしくはPCO等」が連名で申請すること

○実証期間

2024年3月15日～2024年12月末日までに会期が終了する国際会議

○募集

- ・一次募集 ～2024年2月20日
- ・二次募集 2024年4月15日～5月16日

○採択

総応募件数 66件 (第一次51件、第二次15件)

採択総件数 32件 (第一次22件、第二次10件、【111】京都EIMは採択前に辞退)

※中止事業 5件 (台風による中止【014】ICE京都、経費精算辞退【010】ICRA横浜、経費精算辞退【037】広島ISHW
催行人数不足による中止【004】松江APCFE、先方都合により直前で辞退【110】沖縄2jks)

2 実施事業の概要 2) 採択事業者一覧

	都市属性 (国際会議)	事業番号	国際会議名	実証事業名	国際会議 の会期	日数	国際会議 参加者	実証事業 参加者 (国内外)	実証事業 参加者 (海外のみ)
1	中核	【004】松江APCFE	アジア太平洋破壊と強度の国際会議	開催都市外でのポストコンファレンスの実施	11/25～ 29	5			
2	グローバルMICE	【007】名古屋EADC	第12回東アジア地域ダム会議	国際学術会議活動の情報発信強化による関連インフラ施設と周辺の観光資源化の促進	6/3～6/7	5	275	89	57
3	グローバルMICE	【010】横浜IEEE ICRA	ロボット工学とオートメーションに関する国際会議2024	日本各地の企業・大学と国外研究者との連携を促進するロボット博覧会&テクニカルツアー	5/13～17	5	6,829	130	50
4	グローバルMICE	【014】京都ICE	第27回国際昆虫学会議	京都開催MICEから滋賀県へのエクスカージョン・プログラム開発	8/25～30	6	-	-	-
5	中核	【015】長崎HSR	第8回保健システム研究グローバルシンポジウム	「介護、防災、環境、障がい者支援、地産地消のイノベーション博覧会」	11/18～ 22	5	1,552	1,552	1,420
6	中核	【021】富山IIT	イオン注入国際学会	富山県に根差す産業と半導体産業の融合による新技術を生み出すための機会創出	9/20～26	7	386	216	122
7	グローバルMICE	【024】仙台ICPE	The 20th International Conference on Precision Engineering	学術的・観光的にバランスのとれたエクスカージョンによる国内外研究者間の相互理解促進の 試行	10/23～ 27	5	657	200	122
8	グローバルMICE	【025】広島ICOC	第15回国際イオン物理学学会	日本の鍾乳洞観光ツアーと国際学会の融合を試みる：国際的学術活動で地域活性化を	6/2～6/7	6	183	184	116
9	グローバルMICE	【026】広島IPS	第24回太陽エネルギーの光化学的変換・貯蔵に関する国際会議 (IPS24) / 人工光合成国際会議(ICARP)2024	国際学術研究地域への誘客と東広島地区産業の国際化 西条酒蔵見学・ティスティング/最先 端工場見学 (MICRON/サタケ) 酒蔵通り散策/座禅体験から地元酒蔵飲み比べ	7/28～ 8/2	6	403	119	63
10	中核	【027】高松IIAI	第16回先進的応用情報学に関する国際会議	自治体と産業の広域連携により香川県をPRする国際会議のテーマパーク化	7/6～ 7/12	7	315	160	60
11	グローバルMICE	【028】福岡IGLTA	IGLTA世界総会2024	IGLTA世界総会2024 福岡サテライト会議/メディアFAMトリップの実施	10/23～ 26	4	575	72	12
12	グローバルMICE	【029】北九州ACCS	第15回アジア化学センサ国際会議	北九州・下関海峡エリアの観光プログラム開発	11/17～ 20	4	325	158	70
13	グローバルMICE	【031】横浜MSEAS	海洋社会・生態系システムシンポジウム 2024	海洋科学の国際学会MSEAS2024と地域社会が協働する「Art for MOTHER OCEAN」プロ ジェクト	6/3～6/7	5	207	127	85
14	グローバルMICE	【035】京都MNC	第37回マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議	半導体加工プロセス技術セミナーとプロセス実習	11/12～1 1/15	4	582	220	30
15	グローバルMICE	【037】広島ISHW	第24回国際ステラレータ・ヘリオトロンワークショップ	研究者コミュニティとスタートアップ企業を結ぶ新しい形のフュージョンエネルギー開発共同 体の創造	9/9～13	5	231	52	26
16	グローバルMICE	【041】京都STS	科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム	地域に貢献するビジネスマッチング・交流/開催都市外・高付加価値型・課題解決型エク スカージョン/万博・企業と連携した公共性の高い府市民向けシンポジウムの実施	10/6～8	3	1,359	169	149
17	グローバルMICE	【042】北九州中津ABC	行動と振る舞いに関するABC2024国際会議	福岡県北九州市・大分県中津市連携国際会議の実施	5/28～ 5/31	4	72	72	42
18	グローバルMICE	【046】名古屋ISS	第23回乳幼児けいれん研究会国際シンポジウム	日本の祭り文化及び地元(愛知・名古屋)の染物文化を世界に発信	5/30～ 6/1	3	304	148	61
19	グローバルMICE	【051】札幌GEWEX-OSC	第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議	地域産業と連携したテクニカルビジットの実施および開催都市外でのエクスカージョン	7/7～ 7/12	6	901	75	43
20		【110】宜野湾2jks	第2回日本膝関節学会	沖縄MICEにおける地域クーポン発行を通じた文化体験および消費拡大			-	-	-

2 実施事業の概要 2) 採択事業者一覧

	都市属性 (国際会議)	事業番号	国際会議名	実証事業名	国際会議 の会期	日数	国際会議 参加者	実証事業 参加者 (国内外)	実証事業 参加者 (海外のみ)
21	政令	【113】 岡山OptoX-NANO	ユビキタス社会・再生エネルギー・ヘルスに資するナノマテリアル/デバイスを実現する光・X線計測技術に関する国際会議	MICEをきっかけとした「長期滞在型岡山観光モデル」	11/27～ 29	3	99	21	13
22	グローバルMICE	【112】 仙台EcoBalance	第16回エコバランス国際会議	会議の環境負荷最小化のための取り組みを通じた世代・地域間連携の実践	11/3～7	5	625	36	23
23		【040】 宜野湾SPNHC-TDWG	SPNHC-TDWG合同大会2024	開催地の地域資源特色と専門家会議のテーマの高い親和性を最大限活かした先駆的国際会議モデルの創出	9/2～9/6	5	377	162	158
24	中核	【107】 松江IALC	第15回新材料とデバイスの原子レベルキャラクタリゼーションに関する国際シンポジウム	「たたらで縁結び」一波及効果を広げるテクニカルビジットと地域貢献の融合ー	11/17～ 22	6	208	131	58
25		【108】 つくばHVIS	17th The Hypervelocity Impact Symposium	アジア初開催をきっかけとした宇宙産業の拡大	9/8～13	6	145	161	104
26	グローバルMICE	【111】 京都EIM	EIM ウェルビーイングツーリズム国際会議	国際会議を契機としたウェルビーイングツーリズム醸成による地域送客	8/29～ 9/2	-	-	-	-
27	政令	【047】 熊本ABMF	ABMI ASEAN+3 Bond Market Forum	国際会議（ABMF）参加者と地域金融経済関係者との相互理解及びネットワーキング	7/8～ 7/12	5	262	200	130
28	グローバルMICE	【102】 大阪SIHDA	第77回 国際古代法史学会	歴史・文化ハイエンド参加者を対象とした「知られざる」日本体験最大化実証	9/23～28	6	186	143	124
29	中核	【106】 呉TEAM	第37回アジア太平洋船舶海洋構造工学会議	瀬戸内の都市間連携による海路・陸路を用いた新しいポストカンファレンスツアーの提案	9/25～28	4	152	152	77
30	グローバルMICE	【114】 東京R10 SYWLC	アイトルプレイヤー リージョンテン エスワイダブリュエル コングレス 2024	サテライトワークショップ併催による参加者への地方都市アピール	8/29～ 9/1	4	332	332	205
31		【016】 弘前EPRBioDose	第14回電子スピン共鳴による線量評価・年代測定および第9回国際生物学的線量評価に関する合同国際会議	開催都市外でのエクスカージョン	9/25～28	4	89	36	30
32	中核	【115】 岐阜DASFAA	第29回先進的応用のためのデータベースシステムに関する国際会議	「東海国立大学機構」（名古屋大学&岐阜大学）の航空宇宙研究拠点の活用による新たな観光資源の開発と、広域観光圏の形成	7/2～7/6	5	240	94	84
33	中核	【109】 松山AABE	アジア生物学教育協議会第29回隔年会議	国際会議開催によるMICE人材の育成と地域産業の活性化による国際対応の強化	10/12～ 15	4	240	60	20

※ 【010】 ICRA横浜：経費精算のみ辞退

【014】 ICE京都：台風により実証事業を中止

【004】 松江APCFE：催行人数不足により実証事業を中止

【110】 沖縄2jks：先方都合により直前で辞退

【037】 広島ISHW：経費精算のみ辞退

各会議の詳細はこちらのファイルよりダウンロードください
【冊子】国際会議誘致に向けて開催効果を高める支援ツール.pdf

3 実証事業の報告 (参加者アンケート)

3 実証事業の報告 1) 参加者アンケートの項目

○参加者アンケート

各国際会議および実証事業が終了後、参加者へメールやQRコードを用いてアンケート調査を実施し、集計を行った

なお、申請者にはアンケート回収率は30%以上の取組を義務付けし、集計結果は主催者やコンベンションビューローへフィードバックも行った

参加者アンケートの項目は以下の通りである

基本属性	・年代、性別、参加国、職業
	・来日回数、同伴者数、滞在回数（日本）、滞在回数（開催地）
	・日本の情報収集
国際会議	・国際会議の満足度
	・企業と知的・技術的な交流、企業と懇親会やパーティー、地元住民と学生との交流
	・訪問先に対する知名度、訪問先に希望する距離・利便性
	・今回知った訪問地で再訪したい・知人に教えた場所・移動手段・許容できる移動時間
	・プログラム目的の前泊や延泊
	・魅力的なプログラムの種類、好みのエクスカージョン
	・居住地から開催地までの往復交通費、国際線運賃、国際線のエアラインの種類、空港から開催地までの往復交通費
実証事業	・国内での消費金額平均
	・プログラムの参加、参加した理由、参加しなかった理由
	・プログラムでの消費額平均
	・プログラムの評価（時間、内容、費用、新規性）
	・プログラムのための早入や延泊
	・プログラムによる変化

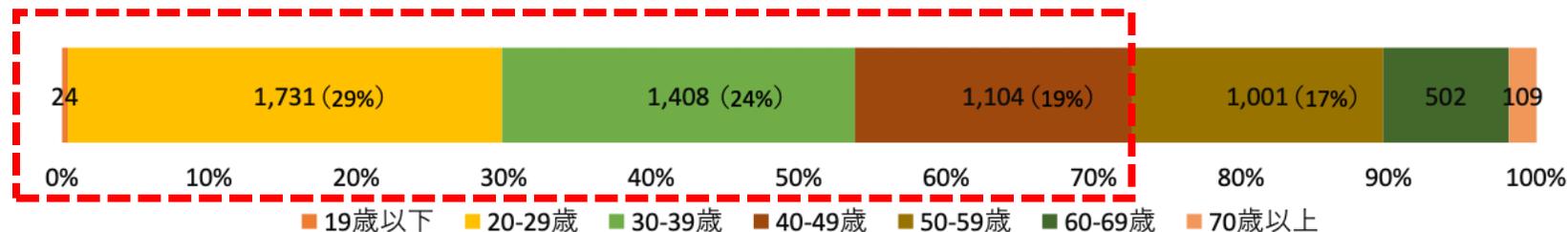
※中止事業3件は除く（【111】京都EIM、【014】京都ICE、【110】沖縄2jks）

3 実証事業の報告 2) 参加者アンケートの基本属性

○参加者アンケートの集計結果

国際会議件数 (件)	国際会議参加者数 (人)	アンケート回答件数 (件)	回答率 (%)
30	18,111	5,879	32.5

(1) 年代



・海外参加者は、50歳未満が72%を占める。参考までに日本人参加者の50歳未満を調査すると63%となっており、日本の参加者は9ポイント高齢化している。

内訳を見ると、

海外参加者 20-29歳 29% (日本人参加者 30%) 海外と同等

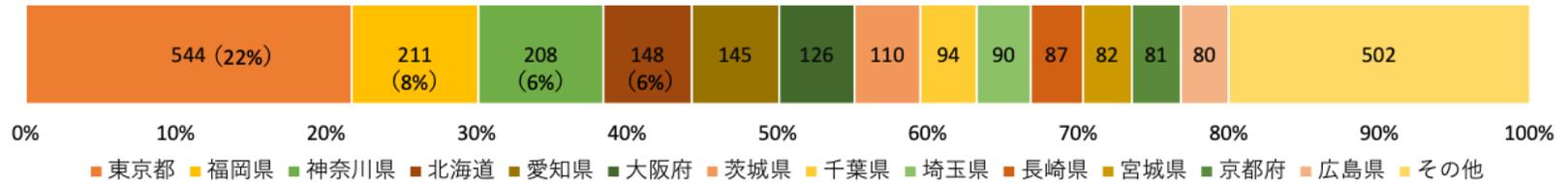
海外参加者 30-39歳 24% (日本人参加者 17%) **大きく差が開いている**

海外参加者 40-49歳 19% (日本人参加者 19%) 海外と同等

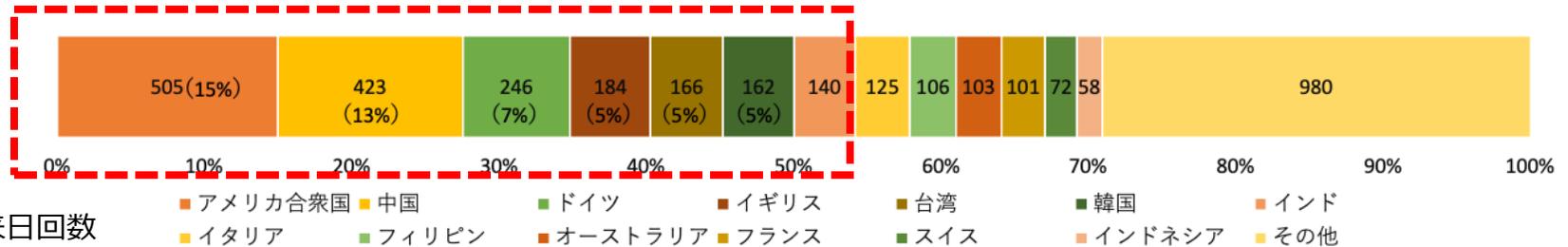
となっており、30-39歳の年代のみが大きく異なる。

・今回の事業でも日本の主催者は高齢化しており、主催者の多くが退官間近な大学関係者が多かった。今後、国際会議の担い手として期待される50歳未満の大学・研究者等の活躍が期待される。

(2) 国内 47都道府県



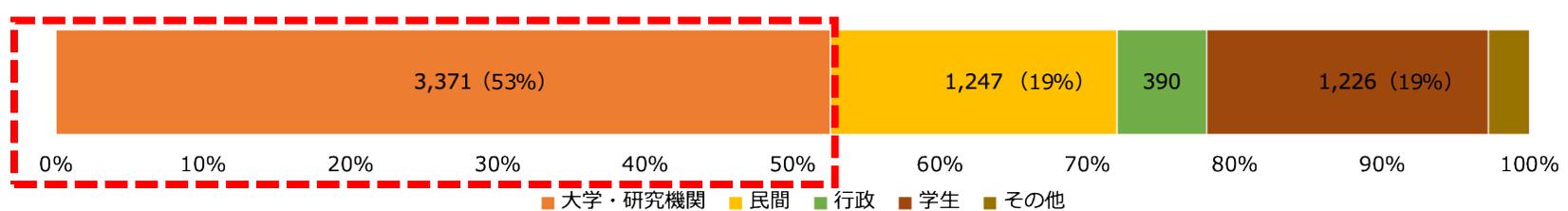
(3) 参加国 (国外) 93カ国・地域



(4) 来日回数

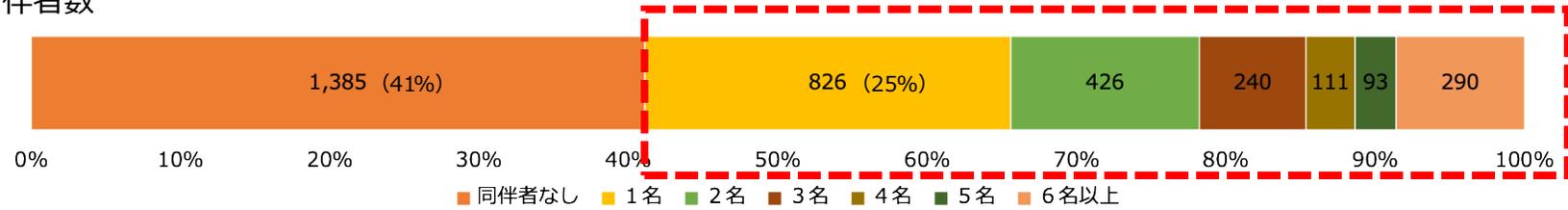


(5) 職業



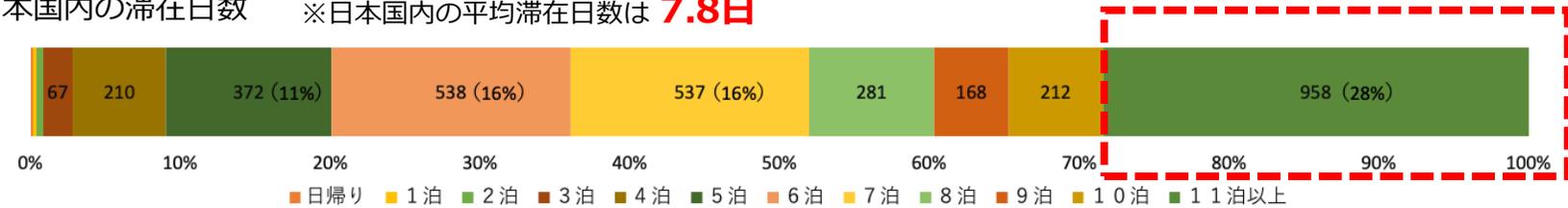
- ・海外の参加者は93カ国のアジア、アメリカ、ヨーロッパ、オセアニア、アフリカといった世界全地域から参加している。
- ・来日回数もはじめての回答が4割で、大学・研究機関の参加が半数だった。

(6) 同伴者数



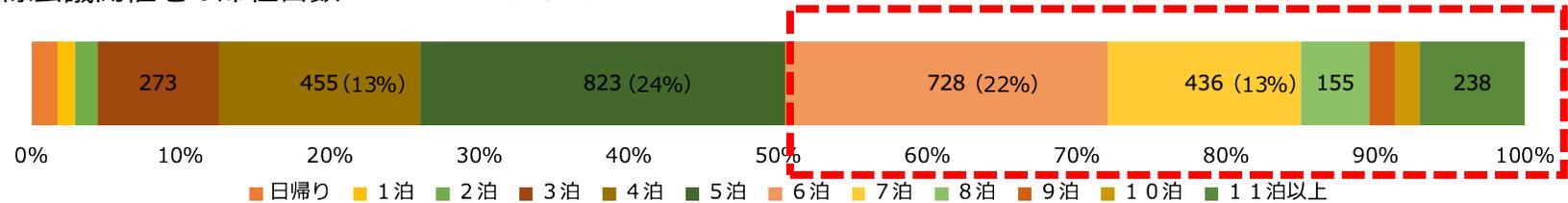
(7) 日本国内の滞在日数

※日本国内の平均滞在日数は **7.8日**

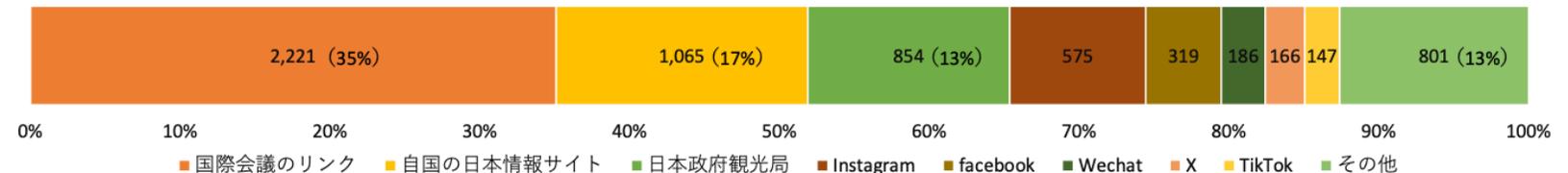


(8) 国際会議開催地の滞在日数

※国際会議の会期日数平均は **4.9日**



(9) 日本の情報収集源



- ・ 同伴者を伴う参加が約6割以上と多いことがわかる。
- ・ 国内滞在は7.8日、開催滞在は4.9日平均。約3日間は開催地以外に滞在している。また、日本国内の滞在は11日以上の長期が最も多い。開催地においては1週間以上の滞在が5割を占める。
- ・ **日本の情報収集**は3.5割が「国際会議のリンク」と最も高い数字であることから、国際会議のページ上に必要な情報を載せることは必要である。**(情報提供はエクスカーションの集客に大きく影響するので開催地情報としてCB等のサイトを紹介する。海外では観光地の紹介、文化、歴史のほか体験コンテンツのニーズが高い)**

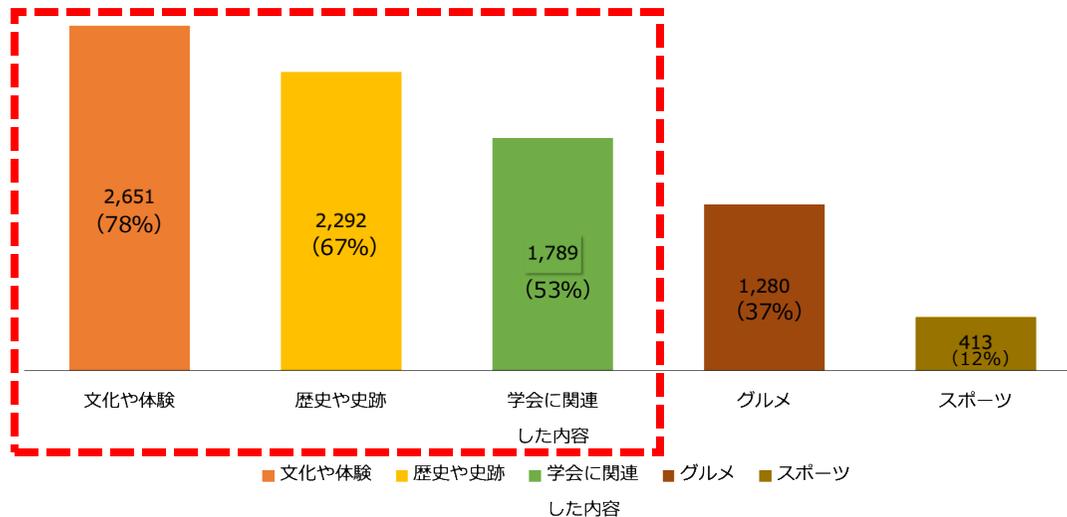
(1) 訪問先に希望する利便性



(2) 許容できる移動時間



(3) 好みのエクスカージョン等 (複数回答)

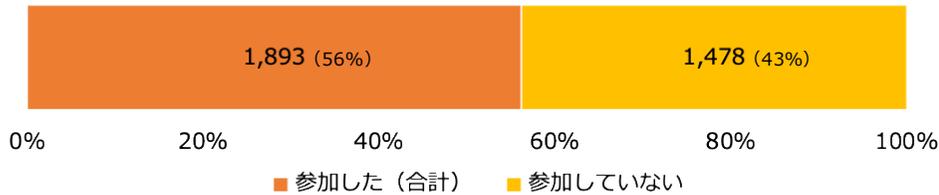


(4) 国内での消費額平均 * 1US\$ = 150円で算出

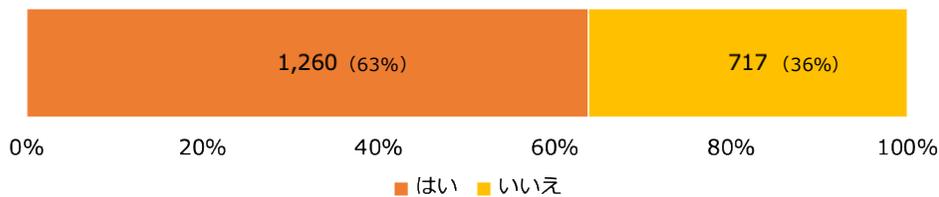


- ・ アクセス容易を希望する割合が7割ある一方で、残りの3割はアクセス困難も一定の割合で支持を得ている。
- ・ 許容できる移動時間は、1～2時間以内が約8割以上である。
- ・ エクスカージョンは文化や歴史体験、また学会に関連した内容を希望している参加者は半数以上である。
- ・ 日本におけるフライトを含む消費額は、438千円とMICE総消費学調査と大差ない結果となっている。

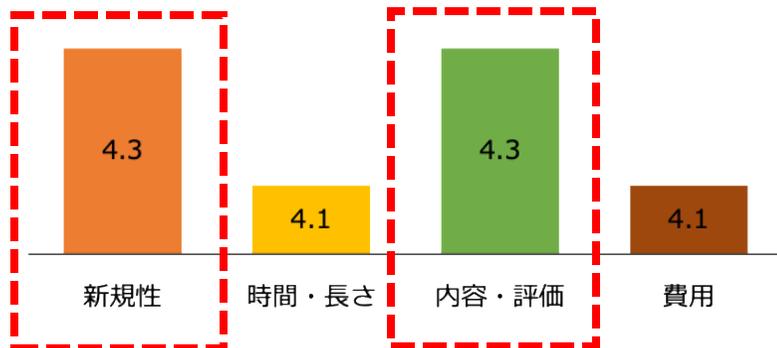
(1) 実証事業の参加



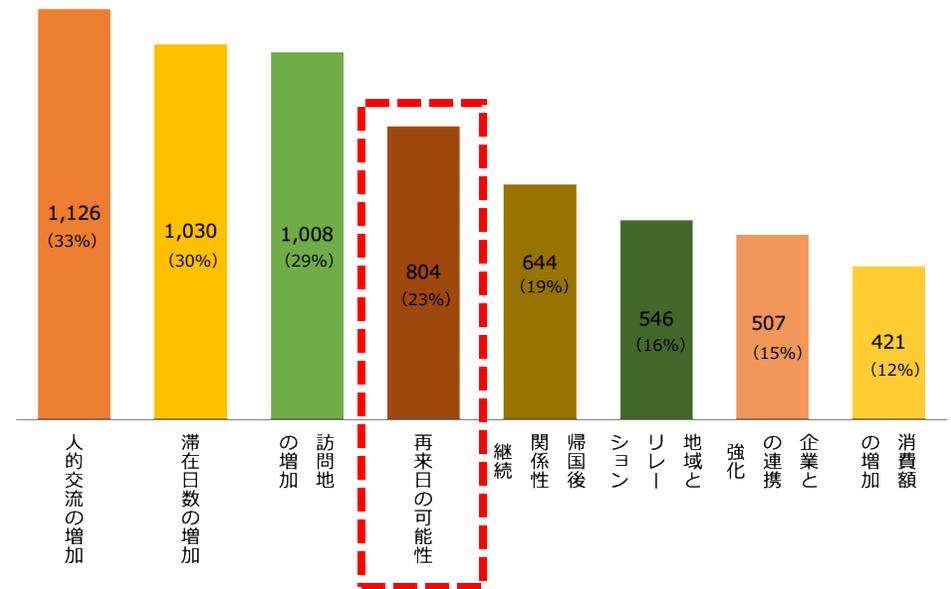
(2) 実証事業のための早入や延泊



(3) 実証事業の評価 (5点満点)



(4) プログラムによる変化 (複数回答)

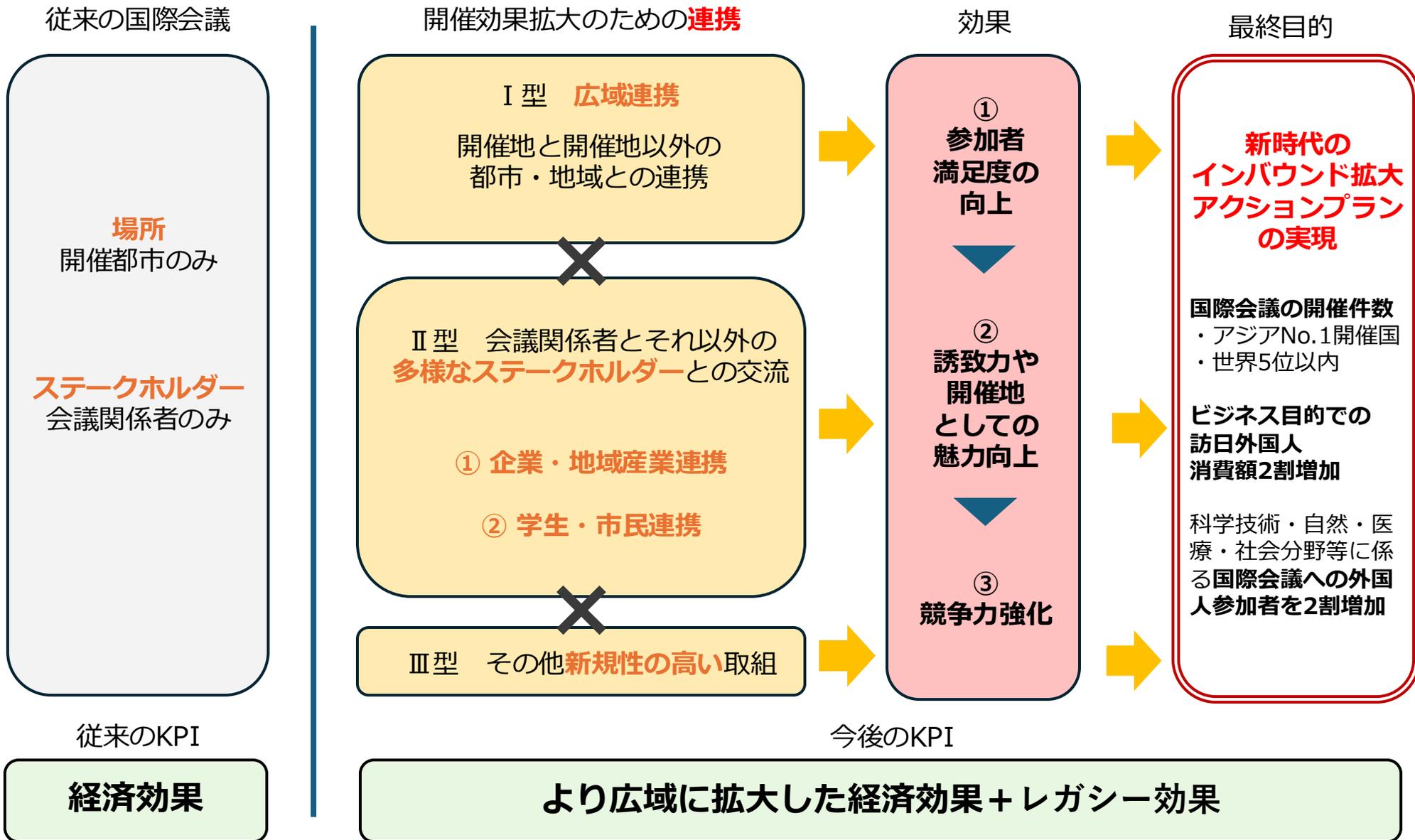


・ 今回の実証事業では「新規性」や「内容・評価」に対する評価が高い。
 ・ 2割以上の参加者が「再来日の可能性」を回答している。事業によって提供されたプログラムは、何らかの再来日へのきっかけを与えたと考えられる。

4 実証事業からの考察

4 実証事業からの考察 1) 開催効果拡大の整理

本事業は「国際会議の開催効果の拡大」を目的としているため、以下のとおり整理する。



015 長崎HSR	会議名	第8回保健システム研究グローバルシンポジウム
	実証事業名	「介護、防災、環境、障がい者支援、地産地消のイノベーション博覧会」
	概要	五島市で離島医療の最先端技術と現場体験を組み合わせたテクニカルビジット (①介護分野の人材育成②ドローンの医療品輸送視察、③持続可能な社会の構築に向けた地域連携) と情報交換会を実施。また、国際会議期間中は介護、防災、環境、障がい者支援、地産地消分野の先進的な取組を展示するイノベーション博覧会を開催。

■ 広域エクスカージョン

長崎大学 × DMO NAGASAKI × 五島市

長崎大学 × DMO NAGASAKI × 地元・民間企業



■ 事業のポイント

- **長崎市 + 五島市** という他の地域へ波及
- テクニカルビジットでは**保健医療の学びの機会 (視察・体験)** を産学官民が連携し、提供 (既存コンテンツをストーリー仕立てで展開)
- **レセプションにて地域の医療関係事業者の展示会を併設**

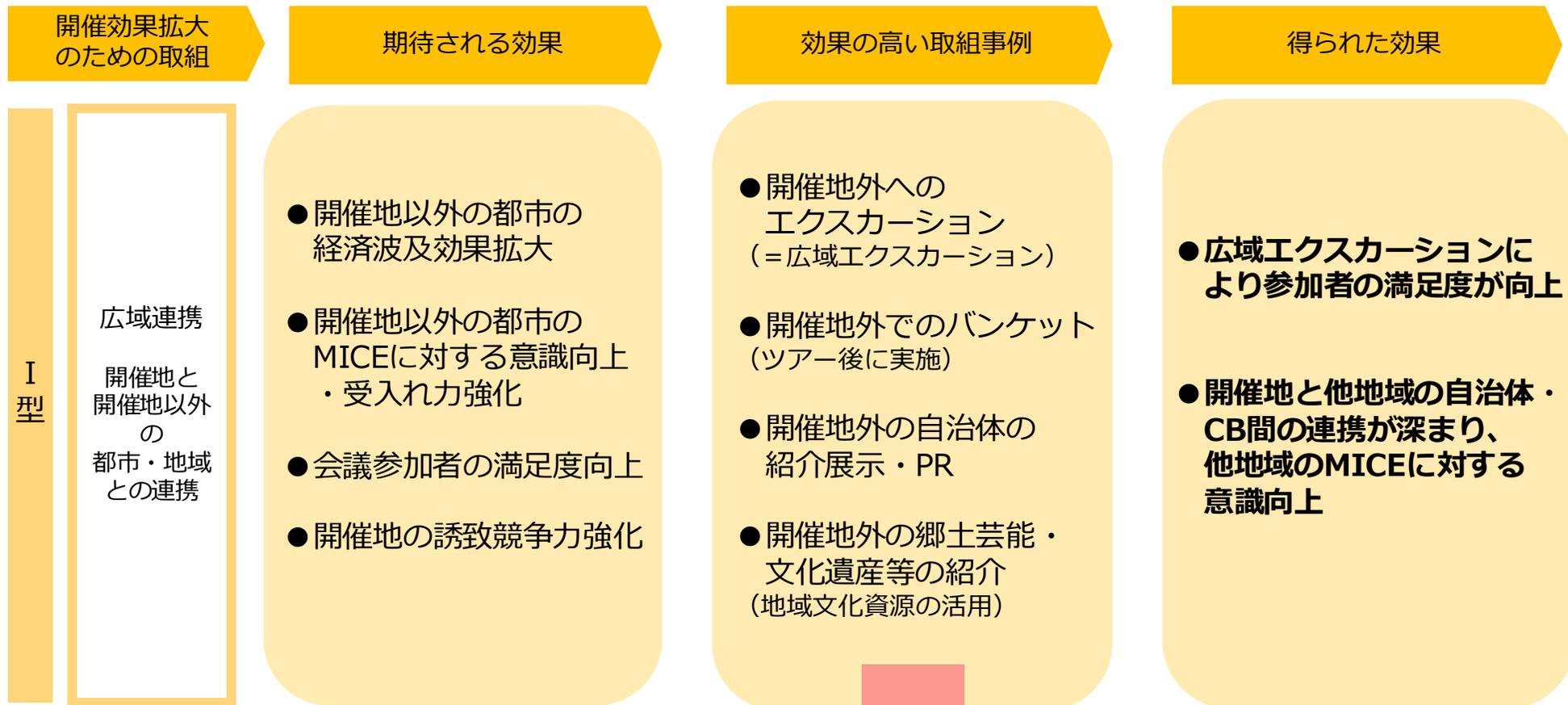


実際にドローンを飛ばして治療薬を空から配達

○類似他事例

- 【051】札幌GEWEX-OSC : 札幌、当別町の2箇所で会議テーマに基づく、上流～下流までの水の働きを学ぶストーリー性の高いエクスカージョン。
- 【024】仙台ICPE : 会議場仙台を除く、宮城県4つの地域で学術施設と景勝地4つのエクスカージョンを行い、ツアー後総括の場を設けた。

I 型 広域連携



他地域でも応用可能な手法

- 既存コンテンツをストーリー仕立てで展開
- レアな現場と現地とのコミュニケーション
- そこでしか体験できないコンテンツ
- ツアー訪問地の自治体首長の参画
- 他自治体の紹介パネル展示
- 他地域の郷土芸能・文化遺産等の紹介

041 京都 STS	会議名	科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム
	実証事業名	地域に貢献するビジネスマッチング・交流/開催都市外・高付加価値型・課題解決型エクスカージョン/ 万博・企業と連携した公共性の高い府市民向けシンポジウムの実施
	概要	地元主催レセプションに、地元事業者のブース出展・プレゼンを実施。会議参加者向けに京都府全域に亘る特別感のあるエクスカージョンを実施。府市民向けの市民公開講座をオンライン配信を含め開催。

連携▶ 京都府×京都文化交流コンベンションビューロー ×企業（半導体）

■ 事業のポイント

- 地元主催レセプションに初の試みとして
**地元企業によるブース出展を行い、参加者と地元企業との交流を
生み出す機会を創出**
出展にはスタートアップ企業やベンチャー企業等13社が参加



企業ブース

■ 得られた成果

- **新たな販路やコネクション開拓等の新たなビジネス機会の創出**
- **MICE開催を通じた地域への還元の新しいモデルケース**



ブースでのプレゼン・意見交換

○類似他事例

- 【010】 横浜IEEE ICRA：テクニカルツアー訪問先の企業に横浜に来ていただき技術交流会を実施。企業と学生のマッチング機会を創出した。
- 【035】 京都MNC：会議の初日に技術セミナーを開催し、地元の半導体関連企業を招待し、会議参加者との交流を図った。

021 富山 IIT	会議名	イオン注入国際会議
	実証事業名	富山県に根差す産業と半導体産業の融合による新技術を生み出すための機会創出
	概要	会場に国際会議に県内企業の方を招待し、半導体企業との交流の場を提供し、非半導体企業を含めた8つの企業訪問・工場見学を実施。近隣の大学生/高専生/高校生を招待し、サテライトワークショップを開催。一部の学生はポスターセッションにも参加し、海外研究者に対して英語で研究発表を実施。

連携 ▶ IIT実行委員会 × 富山コンベンションビューロー × PCO × 企業 × 学生

■ 事業のポイント

- **大学生・高専生・高校生を対象としたワークショップを開催**
- **学生達によるポスターセッションを実施し、世界的に著名な研究者・技術者が審査。その後優れた発表に対してアワードを授与**

■ 得られた成果

- **富山県・石川県から50名以上の生徒・学生に、国際会議に触れる機会を提供**
- **今回参加した学生を中心に、応用物理学会スチューデントチャプター北陸・信越支部の設立が検討されている**
- **会議に学生を募集したことで、学生との接点を求めてスポンサー企業が増加**



ワークショップ

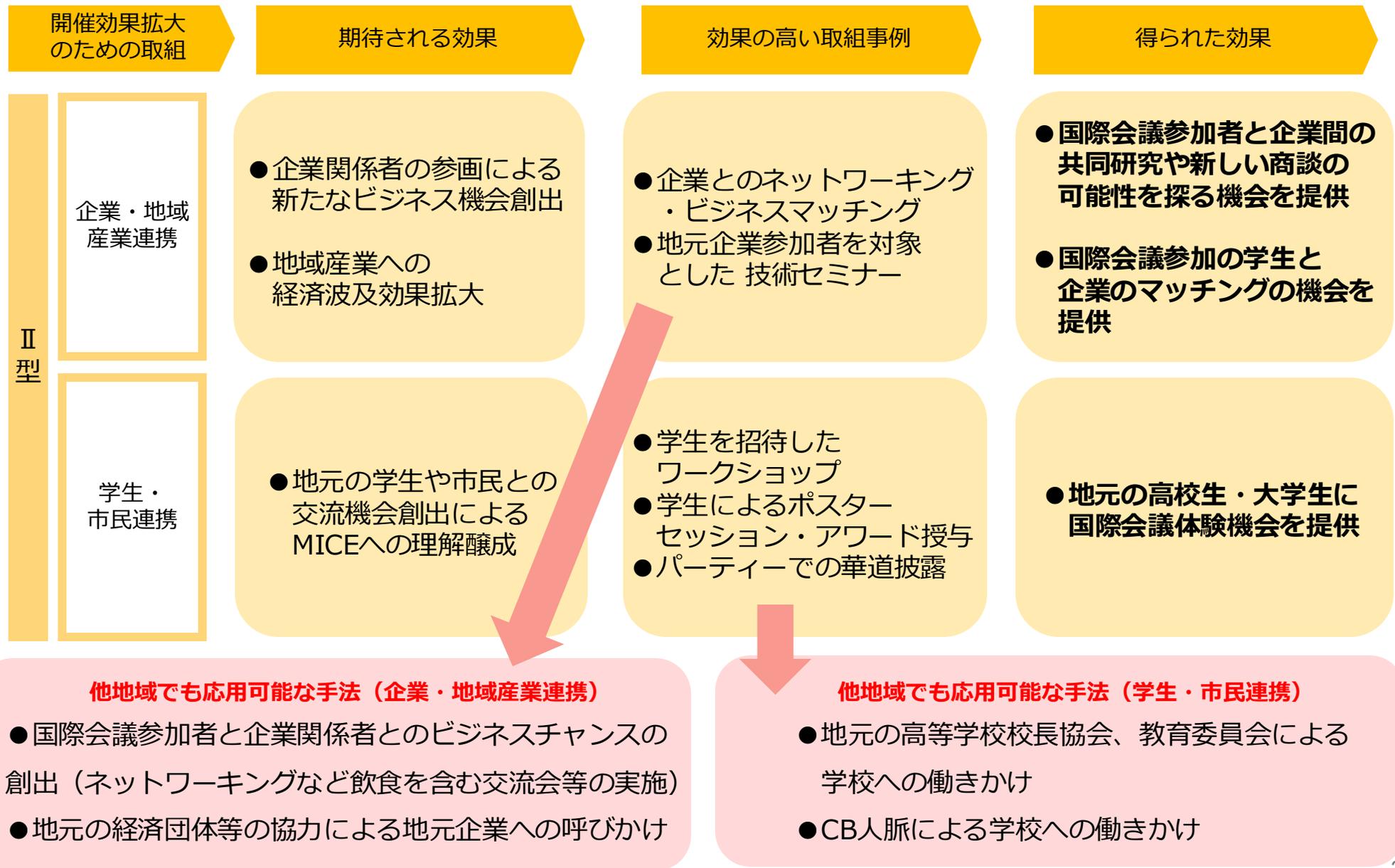


英語でのポスター発表

○類似他事例

- 【014】京都ICE：会議テーマにあわせ、会議参加者と地元の子供達と交流の場を提供する昆虫採集を企画（ただし台風により催行中止）
- 【041】京都STS：レセプション時に地元高校生による生け花のパフォーマンスを実施。海外参加者との交流機会を創出。

II型 会議関係者とそれ以外の多様なステークホルダーとの交流



109 松山 AABE	会議名	アジア生物学教育協議会第29回隔年会議
	実証事業名	国際会議開催によるMICE人材の育成と地域産業の活性化による国際対応の強化
	概要	MICE人材育成のための学生や事業者に対する5つの事前・事後研修を実施。①トコロジストに関する講演会、②ワークショップ現地調査、③ハラル対応講習会、④エクスカージョン実施のための講習会、⑤道後観光の現状に関する研修会を実施

連携▶ 愛媛大学×松山観光コンベンション協会×企業×学生

■ 事業のポイント

- 会議の運営を手伝う学生に対して事前指導を実施、事後はフォローアップを含め地域の観光に関する研修を実施
- 東京から専門家を招聘し、「ハラル認証を取らなくても、どのようにして会議参加者に受け入れられるか」という講習を行う



学生への事前研修

■ 得られた成果

- 研修を受けた大学生を中心に松山観光コンベンション協会が設立したMICE人材バンクに登録開始。今後人材育成を継続予定
- ハラル講習を受けた事業者が提供した飲食が、実際にハラルの参加者に受け入れられることが実証でき、松山でMICEでのハラル対応可能な事業者が増えた

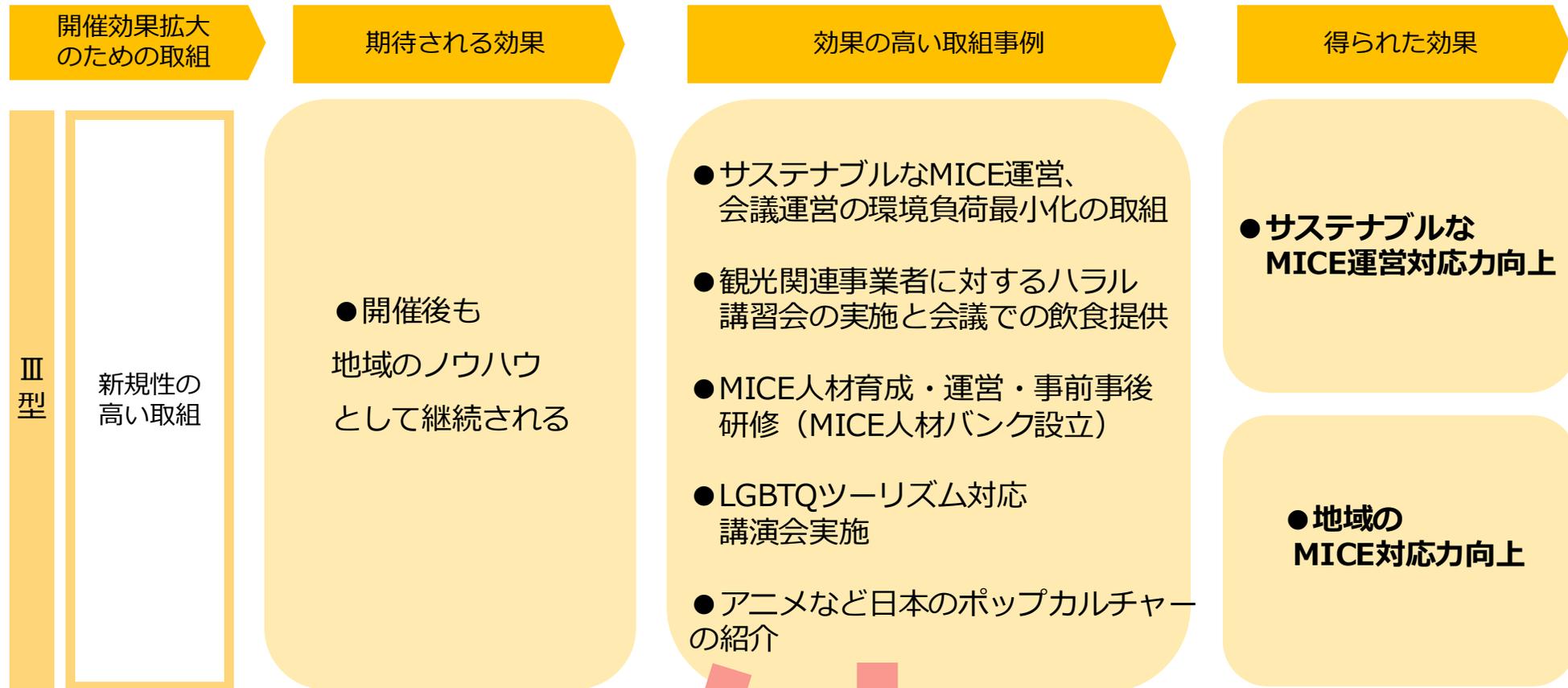


ハラルの説明文書を添付して提供

○類似他事例

【028】福岡IGLTA：「福岡グローバルMICEスクール」の学生がイベントの企画や運営に参画し、海外参加者と意見交換等を実施。また、専門家を招聘し、観光事業者向けのLGBTQツーリズム基礎講座を開催。地元事業者の理解促進を図った。

Ⅲ型 その他新規性の高い取組



他地域でも応用可能な手法（サステナブルなMICE運営）

- ガイドライン作成と検証
- 自然資本保全型カーボンプレジット購入
- 未利用食材活用によるメニュー開発

他地域でも応用可能な手法（地域のMICE対応力）

- ハラル対応に関する講師招聘
- MICE人材バンク設立
- LGBTQツーリズム対応に関する講師招聘
- 日本のポップカルチャーを紹介する

5 課題の整理

個々の取組事例から見えた、全体に共通する課題と解決策について下記にまとめる。

課題

●学生との連携

地域の学生に参画を呼び掛ける場合、どのような方法が効果的か。

※今回の実証事業から見えてきた課題



解決への示唆

地域の教育委員会や校長協会を通じて、地域の学生に声かけをした事例があった。更に、主催者の先生方が実際に学校に足を運び、主旨や効果の説明を行った。また、主催者の先生が所属する国立大学の附属校と連携した事例や、CB職員の母校にお声かけした事例もあった。

●企業との連携

地元企業に声をかけても、国際会議の敷居が高く、参加する企業が集まらないのではないか、という懸念がある。

※今回の実証事業から見えてきた課題



最初に地域の商工会議所等の経済団体に声をかけて、傘下の企業を集めた、という事例があった。また、自治体の産業政策に合致する分野の場合は、自治体の担当部署の協力を得られる場合もある。また、主催者の先生方からお声かけをして企業を集めた事例もあった。

●MICE経験の無い自治体との連携

MICE経験の無い自治体に対して協力を依頼する場合、どのような方法が効果的か。

※今回の実証事業から見えてきた課題



開催地のCBから、先方の自治体に連絡し、事業の主旨や目的を丁寧に説明し、理解を得たという事例が多かった。自治体担当者が、実際に国際会議を体感する、ということが重要であり、更に首長の方に体感いただく機会が作れると、その後につながる可能性が高いため効果的。

課題

●通訳案内士（ガイド）の経験値・レベル

地域により通訳案内士（ガイド）の経験値・レベルに差がある。特に地方においては、レベルアップの機会が少ない。ボランティアガイドの場合、ホスピタリティー度は高く、知識は豊富だが、旅程管理力に乏しい。

※今回の実証事業から見えてきた課題



解決への示唆

ライセンスガイドの場合は、事前の打合せを入念に行うことで、ある程度解決できる。
ボランティアガイドの場合は、ライセンスガイドと組み合わせることで実地研修を行うことも有効である。なお、ボランティアガイドは旅程管理はできないため、要注意。

●サステナブルなMICE運営

サステナブルな運営の重要性は理解しているが、具体的な方法がわからない。または費用の関係で実施できない。

※以前からの課題



今回の実証事業での事例（沖縄や仙台）を参考に、地域として取り組めるところから着手する。
費用に関しては、主催者の理解が必要であるため、目的や有効性に関する丁寧な説明と効果的な提案が必要。

●食事におけるベジタリアン・ハラール等対応

地域によりベジタリアンやハラール等の食事制限への対応力に差がある。
対応可能な飲食店や事業者が少ない。

※以前からの課題



地域の事業者に対して、ベジタリアンやハラール対応の講習会を開催することで、国際会議開催時における対応可能な事業者を増やすことが可能。特にハラールに関しては、「ハラール認証」を受けなくても参加者に受け入れられる場合がある。

課題

● ツアー募集のタイミング

海外参加者が来日の旅程を決定するタイミングでツアーの案内を行わないと、ツアーを募集しても参加希望者が集まらず、催行できない可能性がある。

※今回の実証事業から見えてきた課題

● ツアー直前や当日のキャンセル

特に会期前や早朝にツアーを設定した際にキャンセルが多かった。ロングフライト後の時差等の影響もある。

会期の前にツアーを設定する場合、注意する必要がある。

※以前からの課題

● ツアーの料金設定

どの程度の参加料金を設定すれば参加希望者が集まるのか、料金設定が難しい。

→次ページで詳細を解説

※今回の実証事業から見えてきた課題

解決への示唆

参加者の属性によっても異なるが、海外参加者に関しては、最低でも3か月前、できれば半年前には案内を行うべき、という意見があった。その場合、ツアーの詳細の案内は不要で、その日にツアーが設定されることだけわかればよい。ただ参加者にVIPが多い会議の場合、3か月前だとまだ前後の予定が決められないため、1~2か月前でよいという意見もあった。会議の特性にあわせて設定が必要。

前広な案内と、前金（デポジット）の収受によりある程度キャンセルは軽減できる。前広な案内により余裕を持って来日いただけただけの会議では実際にキャンセルは少なかった。会期前にツアーを設定することで、会議前に参加者同士が交流し実際の国際会議の効果が高まる、または地域にとっては宿泊需要の増加が見込める、というメリットがある。

会議によって条件が異なるため、一律な回答は無い。ツアー料金を登録料に含む場合、主催者が一部負担する場合、全くのオプションで旅行会社が主催する場合、それぞれで料金設定方法は異なる。今回の実証事業の事例で考えると、個人でも行ける訪問地の場合は、ツアー募集をしてもあまり集まらない。

実質コストと徴収可能なコストを比較（主催者やCBからのヒアリング結果からコストを探る）

下記は一人当たりの参加費用に関する表である

一人あたりの費用	実証事業 経費(円)	徴収可能な 費用(円)	差異(円)
【007】名古屋EADC	20,000	28,500	-8,500
【114】東京R10 SYWLC		7,000	-7,000
【112】仙台EcoBalance	10,000	10,000	0
【109】松山AABE	10,000	10,000	0
【102】大阪SIHDA	12,000	10,000	2,000
【040】宜野湾SPNHC-TDWG	18,000	10,000	8,000
【027】高松IIAI	20,000	10,000	10,000
【035】京都MNC	12,000	1,000	11,000
【016】弘前EPRBioDose	50,000	35,000	15,000
【106】呉TEAM	36,000	20,000	16,000
【051】札幌GEWEX-OSC	49,000	15,000	34,000
【042】北九州中津ABC	38,000	1,500	36,500
【107】松江ALC	47,000	5,000	42,000
【024】仙台ICPE	47,000	3,000	44,000
【021】富山IIT	50,000	5,000	45,000
【113】岡山OptoX-NANO	104,000	20,000	84,000

●コスト負担の検討（マネタイズ）

実施事業終了後のヒアリング時に主催者やCBから多い意見としては、

- ・高額な参加者費用は現実的ではない
- ・手頃な参加者費用が理解を得られやすい
ということであった

コスト負担を検討するためには、

- ・参加者が負担できる金額と内容を考える
- ・CBや自治体の助成金を検討する
- ・メリットを受ける企業からの協賛を集める

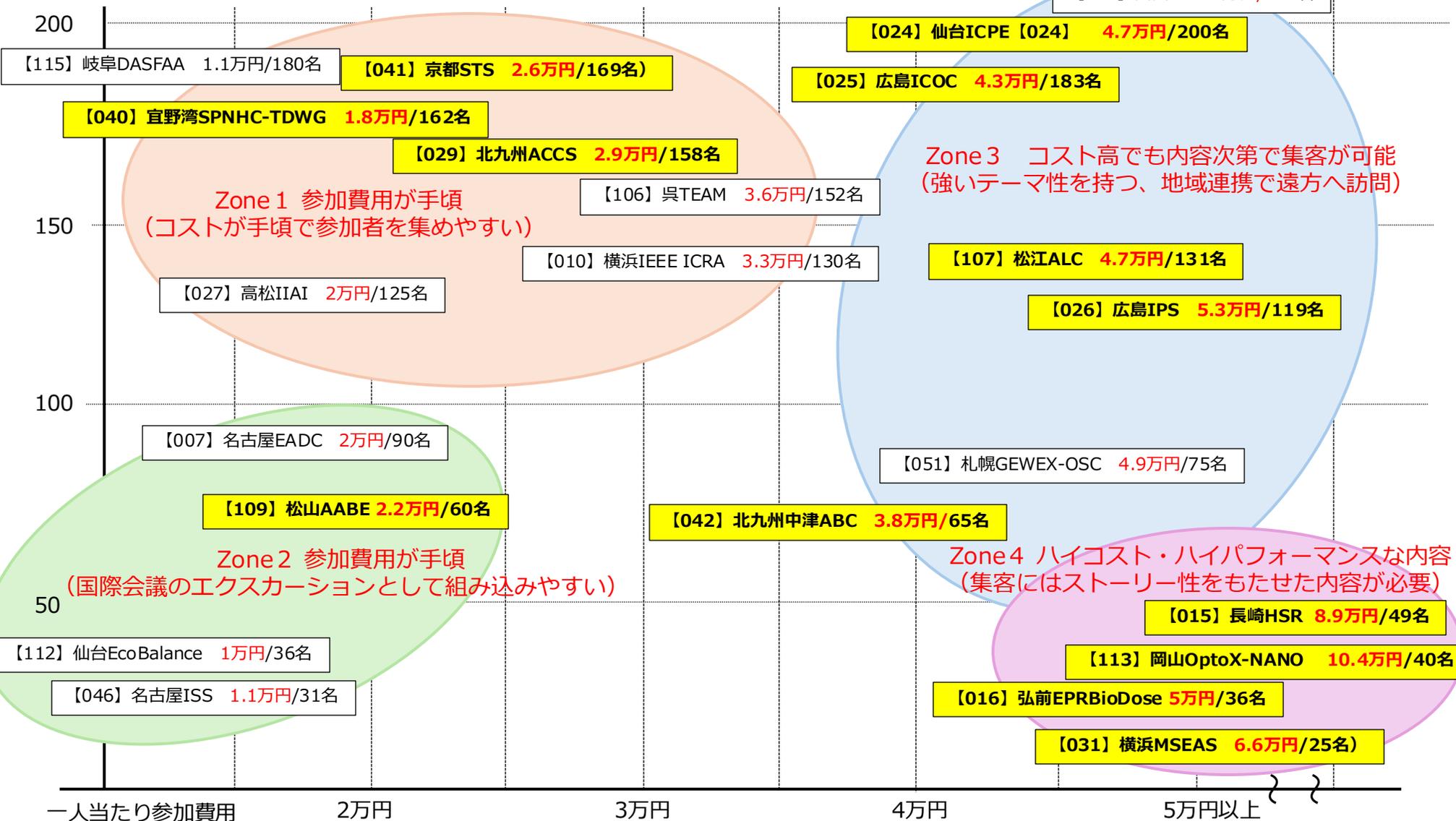
などが必要である

ツアーの料金設定 資料②

実証事業名 一人当たりの参加費用/参加者数

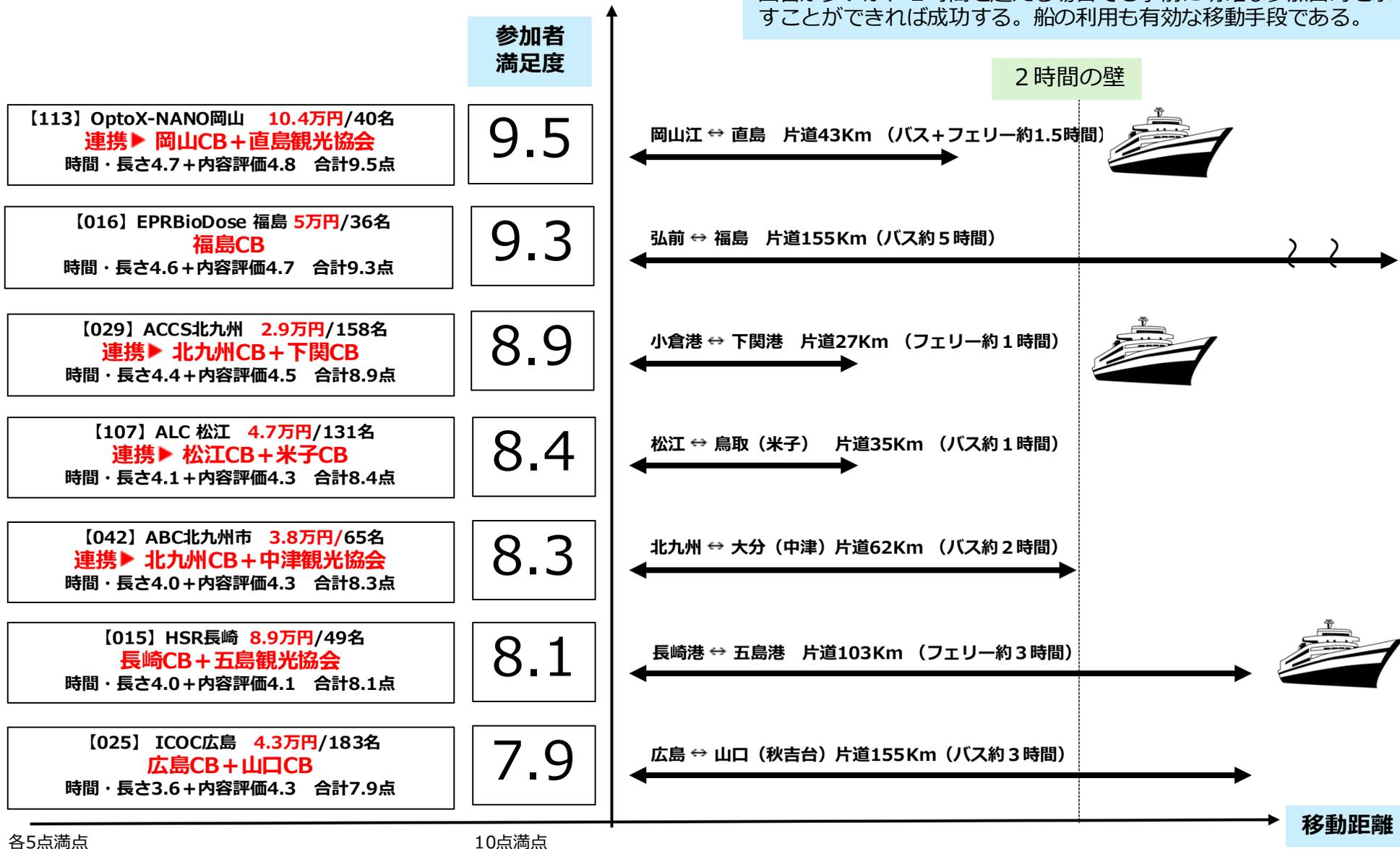
黄色は参加者アンケートによる満足度上位の事業

参加者数 (人)



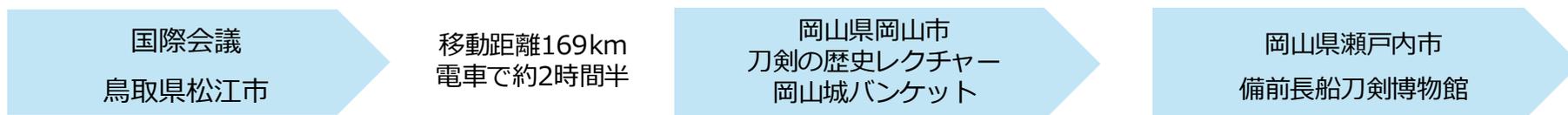
開催地においてエクスカージョンの適切な訪問先がない場合は地域連携で遠出の検討は効果的

●設計する際のポイント
平均では参加者アンケートからは移動に2時間以内が望ましいとの回答が多いが、2時間を超える場合でも事前に明確な参加目的を示すことができれば成功する。船の利用も有効な移動手段である。



集客不足により中止になった実証事業

004 松江 APCFE	会議名	アジア太平洋破壊と強度の国際会議（11/25～29）
	実証事業名	開催都市外でのポストコンファレンスの実施（11/29～30）
	概要	国際会議終了後、岡山県へ移動し、刀剣や岡山の歴史をレクチャー。その後岡山城でバンケットを行う。翌日、刀剣の歴史を長船の刀剣博物館で学び、会議テーマである工学材料の強度の分野に因んだ、物質として鉄の生成から、刀という伝統工芸品に昇華するストーリーを提供。



■ 集客

- 3月：主催者とツアーの詳細を詰める
- 4月：ホームページで事前告知
- 5月：先行でツアー募集開始
- 8月：国際会議の参加登録開始
- 11月：中止が決定

※十分な期限をもってホームページ上に事前告知
 ※会議期間中に4つの半日エクスカージョンも計画していたが、こちらにも催行人数不足で開催中止となった

■ 催行中止理由

- （主催者より）
- ・当初の予定よりも中国人の会議参加者が極端に少なかった
 - ・1泊2日という企画が大規模過ぎた可能性がある
 - ・松江を出発し解散場所が岡山だったことが悪かった可能性
 - ・ツアータイトル（「たたらと刀」）が理解しにくかったかもしれない
 - ・国際会議とツアーコンテンツが参加者の興味とマッチしていなかった
 - ・最近大学や企業の出張が厳しい（会議日数以上滞在するのが困難）
 - ・有料（5,000円）にこだわりすぎた

■ 反省点と今後のポイント（今回のエクスカージョンを企画したエージェントより）

- ・主催者は募集型ツアーを実施したい傾向にあるが、**参加者としては個人型嗜好が強い傾向**（行きやすい場所→自分たちで計画）一方で**テクニカルビジットやサイトビジットの場合**は個人では計画できないので集客しやすい（行きにくい場所→ツアーに参加）
- ・参加者は仕事で来日しているため、**国際会議の研究テーマに関連した内容をどのように適用できるかが、催行の可能性を高めるポイントである**
- ・松江は文化施設はたくさんあるが、テクニカルなコンテンツは少ないので、他県を利用することは大切である

6 今後に向けたまとめ

従来の国際会議

場所は開催都市のみ

ステークホルダーは
会議関係者のみ

- ・開催地の魅力を知ることができないをまま滞在終了
- ・再訪したいと思う人は少ない
- ・地域での消費額も少ない

- ・誘致に関して受け身の対応
- ・管轄エリアのみで対応
- ・市民交流は多いが
企業との連携事例が少ない

本事業による成果

開催都市だけでなく、
他地域を巻き込んだ
広域連携や企業、
学生・市民連携は
開催地の効果を拡大する

+

ビューローや
自治体、PCO、企業など
多様なステークホルダー
との連携を創出

- ・満足度向上
- ・日本文化や歴史の高い関心
- ・再訪の可能性
- ・一定の消費額

多様なステークホルダー
との連携で開催地の魅力向上
や誘致力強化に繋がる

開催効果拡大を自走化

前提条件（参加者アンケート結果より）

- ・開催期間以上に
長期滞在の傾向がある
- ・エクスカージョンやテクニカル
ビジットは自力では訪問できない
場所に関心がある
- ・開催地以外の訪問意欲が高い

海外参加者の潜在ニーズを
満たすためには…
**連携の幅を広げたり、
新たなコンテンツ開発が
必要である**

**地域の継続的な
開催効果拡大**

連携は開催地域の魅力を高め、参加者の満足度や国際会議の価値向上、経済波及効果ももたらす。そのため、広域連携やビジネスマッチングの場を提供するなど様々な主体と連携を図り、地域の継続的な発展に繋げることが重要である

国際会議会場などの状況

参加者

ビューロー等

次へ繋がる動き

- 広域の連携を行うこと、企業や市民との連携を構築することで終わってしまっては**先にはつながらない**
- 継続した取組により、**開催効果拡大の自走化と深化につなげる**ことが重要
- 継続した取組がなければ、1つの事例が増えただけ本質的な地域の**国際会議の誘致力強化**にはつながらない
- 実証事業の取組は開催効果拡大の自走化と深化に向けた**「きっかけ」**という意識が必要

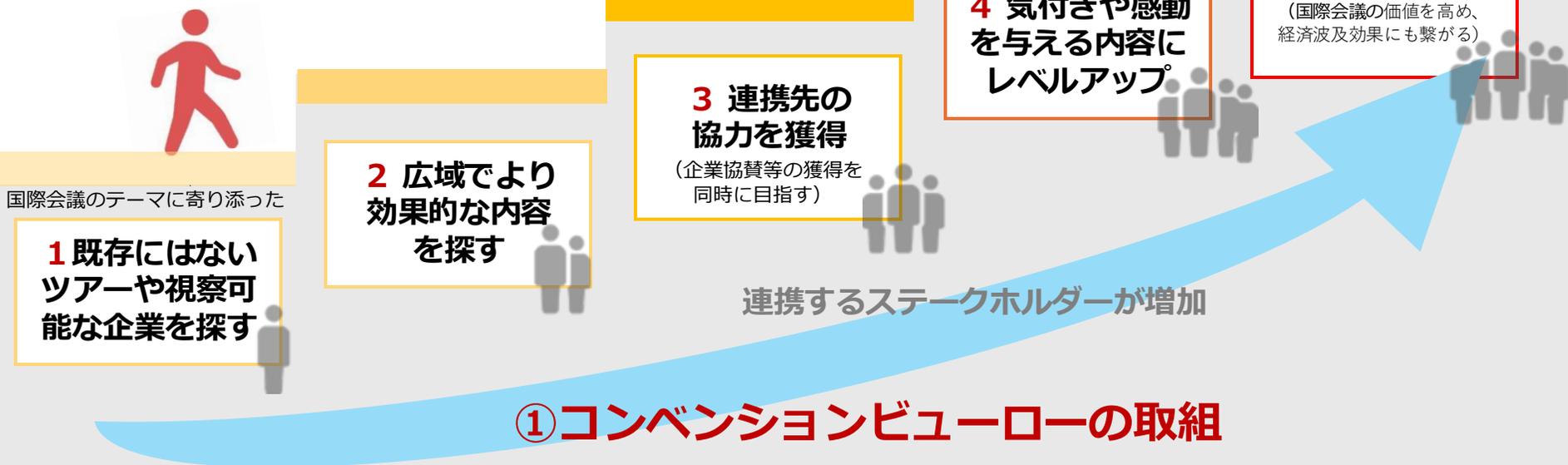
次ページにて、
コンベンションビューロー主体による開催地域の取組フローを解説する

- ・誘致に関して受け身の対応
- ・管轄エリアのみで対応
- ・企業との連携事例が少ない

という課題があるため、

受け身から能動的なアクションへの転換が必要

連携から生まれた新たな提案材料を獲得
これをさらに活かして
新しい**誘致**へのチャレンジ



①の取組後に、連携した地域にもたらされる様々な効果

未利用資源の
発掘

連携による
経済地域の拡大

新規ビジネス
チャンス

連携地域の
コンテンツ開発

連携地域の
レベルアップ

開催効果拡大のための必要な取組

① 予算に合わせた提案

- ・ **催行人数と参加費用がエクスカージョンの成立の鍵**となる。また、移動距離や普段訪問できない場所など訪問目的や効果なども重要である
- ・ ビジネスマッチングは企業の参加メリットと費用負担が鍵となる

② 費用対効果の最大化を図る

参加者がメリットとして感じる点は、エクスカージョンやビジネスマッチングを通して得られる新たな学びや興味関心等。そのため啓発につながるコンテンツを準備する

③ 実績を積み重ね、次の誘致に挑戦

実績で得られた知見・ノウハウを蓄積し、次の誘致に活かす

地域の継続的な開催効果拡大に必要な取組

① なぜ連携が必要なのかの整理

連携は**地域の魅力**を高めながら、**参加者の満足度**を高めることができ、主催者が開催する**国際会議自体の価値**、さらに**経済波及効果**もあるため必要である

② 連携する地域や主体を検討

- ・ **ビューローの取組に加えて自治体や大学などを巻き込みむことで協力体制が強固となる**。実行委員会など推進組織の枠組みも有効である
- ・ PCO、エージェント等民間の専門家や企業を巻き込むとより効果的

③ ビューローが次に繋げる動き

- ・ **連携先と関係性を継続する取組**
- ・ **誘致へ繋げるためのマニュアルやチェックリストの活用**

POINT

- ・ **エクスカージョンは、プレ（ポスト）ツアーとして国際会議のオフィシャルイベントの位置付け、ソーシャルプログラムやサイエンティフィックプログラムなど区分や明示も重要**
- ・ ビジネスマッチングではサイトビジット、展示会、商談会、情報交換会などの組み合わせが効果的である

【エクスカージョン】海外参加者は開催地以外の訪問意欲が高い、開催期間以上に長期滞在する傾向がある、自力では訪問できない場所に関心がある等の潜在的ニーズを考慮する
【ビジネスマッチング】**参加者は企業視察などリアルな情報交換に関心が高い**。企業協賛等の獲得を目指すことも大切

- ・ **海外参加者によるSNS等の情報発信は拡散として効果的であり、実績としても有効である**
- ・ 知見、ノウハウを活かした誘致のためのチェックリストを整備し次の誘致に備える

POINT

- ・ 海外参加者の**潜在的ニーズ**において、エクスカージョンやテクニカルビジットは**自力では訪問できない場所に関心があり広域での訪問先探しは重要**

- ・ 連携主体が多くなるとコミュニケーション不足が起こりがち
- ・ PCOやエージェントへ丸投げでは、ビューローの人材育成やノウハウの蓄積につながらない

- ・ **連携先との関係性を持続するためには連携協定などMOUの締結や連絡協議会のような定期的なミーティングの開催が効果的**
- ・ 国際会議のテーマに関連した企業等へのアプローチは大学や自治体、商工会等が把握している場合が多く、**誘致案件ごとに推進体制を構築**することが重要

- 連携は開催地域の魅力を高めながら、参加者の満足度や国際会議自体の価値を高めることができ、経済波及効果にも繋がる
そのため**開催地域にないものを広域で連携**したり、
参加者や企業にメリットのある**ビジネスマッチングの場を提供する等**
様々な主体と連携を図り、**地域の継続的な発展に繋げる**ことが重要
- 開催効果拡大を自走化するためには
主催者・参加者の予算を踏まえた提案を行うとともに、
国際会議単体ではなく**地域全体としての「費用対効果」**を示した上で
各関係者の理解合意・企業の協賛を獲得していくことも重要
- 国際会議の開催効果を高め、地域の継続的な魅力向上のためには
ビューロー等が主体となり、取組を進めることが重要

7 資料

チェックリストを活用し、誘致に効果的な項目を見つける

令和6年度の全30事業
における課題等を整理した
取組チェックリスト

テーマごとに計画の妥当性を探る

取り組み内容からヒントを探る

効果項目から最大化を図る

より効果的な
実施計画へ
(チェックリストは誘致用提案書等
にも利活用可)

カテゴリー	テーマ	☑	取組	配慮事項	重要度	参照事業	
エクスカーション編	訪問先選び 企画内容の検討		帰国時に報告できる内容を企画する	一般観光が中心であれば、研究者や大学、行政関係者は公費参加の対象外となる	高		
			一般観光との差別化を図る	一般観光は個人でレンタカーを借りるなど個人旅行の傾向が増えている			
			ポストカンパレンスツアーなどの位置づけを検討する	オフィシャルなツアーは、多くの参加者を集めることができる	高		
			移動距離は2時間以内が好まれる	移動距離は短いほうが良いとの傾向があり、募集時に気軽さをPRすることができる			
			移動距離が2時間以上の場合は腹落ちするストーリー性が必要	移動距離が長くても、それなりに価値を訴求できる内容であれば参加者は集まる			
			県外など広域エリアの訪問は内容次第で効果的	様々な訪問先やコンテンツの組み合わせが可能となり充実した内容となる			
	募集時			観光スポットや見どころはレアな場所やコンテンツが好まれる	有名な場所よりも希少性や珍しいなど内容が好まれる		
			募集にあわせて参加者向けの日本の情報収集サイトを紹介する	国際会議のWEB上に地域や、JNTOなど必要な情報を載せる			
			募集にあわせて参加者向け情報提供は関心のある内容やコンテンツを紹介する	文化、歴史体験、学会に関連した地域の情報等を希望している			
			簡単なプロモーションビデオなど動画による訴求を行う	既にある動画を編集し、短めの動画は訴求力が倍増し参加率を高める			
			国際会議参加登録と同時にエクスカーションの受付を行う	後日の募集は効果が半減（参加登録時に往復フライトを予約するため）	高		
	移動		有料で募集する	無料はno showなど当日キャンセルが出やすい			
			募集時に年齢や参加国別等を把握する	平均年齢が低いと食事は多めの手配が必要。国別は食の多様性等の配慮に役立つ	高		
			海に囲まれた日本は船を利用した移動も海外には人気	景色が豊かな船のゆったりとした移動はエクスカーションに彩りを添える			
			バス移動中はガイドや通訳で地域の解説を行う	地域の特徴や歴史・文化・裏話などを紹介する			
	飲食やパフォーマンス		バスにおける弁当などの食事はハラル対応なども考慮	食の多様性に対応	高		
			バス移動中に地域のプロモーションビデオなどを上映する	地域をより具体的に学ぶことができる			
			市長挨拶など歓迎スピーチは効果的	地域を代表してのウェルカムメッセージは海外では重要な取組			
			食の多様性を十分に考慮する	ベジタリアン、ビーガン、ハラル対応などを準備し、表示も工夫する	高		
			日本酒などの地酒、地ビール、ワインなどは人気がある	各地域の特産品を用意する	高		
			アルコールの飲み比べ等は、余興として盛り上がる	各地域をより深く理解してもらう機会となる			
		会場に制限がある場合は、キッチンカーなどの活用も検討する	公的な施設は飲食の制限がある場合があり、その場合の工夫方法として役立つ				
		カトラリーは箸と洋食用の両方を用意する	各国からの参加者を考慮する	高			
		試食や即売のコーナーを設けることもアイデアとして有効	お土産として人気の地域特産品がある場合は役立つ				
		参加者同士のコミュニケーションが相互に図れる工夫を行う	知らない参加者の組み合わせになるような工夫を実施する				
ガイド・通訳		地域の余興などの披露は重要	体験型にするとより満足度が向上する	高			
		地域を熟知したガイド・通訳の手配は重要	クオリティーのばらつきがないようにする。マニュアル等あればさらに良	高			
		ガイド・通訳の事前研修は効果が絶大	国際会議の専門性を事前学習することで会議テーマの専門用語を理解し参加者へ説明				
		SNSなどのホットスポットやコンテンツを紹介する	参加者がSNS上で自分の体験を拡散し、より日本の魅力が外部へ発信される	高			
		日本と海外の文化や習慣の違いや裏話を解説する	より日本への興味や関心につながる。再来日性も高まる	高			

資料 自走化に向けて開催効果を高めるためのチェックリスト

カテゴリー	テーマ	☑	取組	配慮事項	重要度	参照事業
テクニカルビジット編	訪問先選び 企画内容の検討		帰国時に報告できる内容を企画する	一般観光が中心であれば、研究者や大学、行政関係者は公費参加の対象外となる	高	
			国際会議のテーマに沿った企業訪問等の内容を検討する	日本の先端技術、文化、伝統工芸、ポップカルチャーなど様々なテーマが対象となりえる	高	
			普段見れない外部公開していないなどレアな訪問先を探す	希少性が増し、参加者の満足度が向上する	高	
			企業探しは自治体や商工関係者等を巻き込み連携を図る	複数の視察先確保や関連した企業を見出すことで新たなビジネスの連携を創出する		
			移動距離は2時間以内が好まれる	移動距離は短いほうが良いとの傾向があり、募集時に気軽さをPRすることができる		
			移動距離が2時間以上の場合には腹落ちするストーリー性が必要	移動距離が長くても、それなりに価値を訴求できる内容であれば参加者は集まる		
			県外など広域エリアの訪問は内容次第で効果的	様々な訪問先やコンテンツの組み合わせが可能となり充実した内容となる		
			スタートアップ企業など新しいビジネスモデルは参加者に人気がある	〃		
			観光スポットや見どころはレアな場所やコンテンツが好まれる	有名な場所よりも希少性や珍しいなど内容が好まれる		
	募集時		募集にあわせて参加者向けの日本の情報収集サイトを紹介する	国際会議のWEB上に地域や、JNTOなど必要な情報を載せる		
			募集にあわせて参加者向け情報提供は関心のある内容やコンテンツを紹介する	文化、歴史体験、学会に関連した地域の情報等を希望している		
			簡単なプロモーションビデオなど動画による訴求を行う	既にある動画を編集し、短めの動画は訴求力が倍増し参加率を高める		
			国際会議参加登録と同時にテクニカルビジットの受付を行う	後日の募集は効果が半減（参加登録時に往復フライトを予約するため）	高	
			ポストカンファレンスツアーなどの位置づけを検討する	オフィシャルなツアーは、多くの参加者を集めることができる		
			有料で募集する	無料はno showなど当日キャンセルが出やすい		
	移動		募集時に年齢や参加国別等を把握する	平均年齢が低いと食事は多めの手配が必要。国別は食の多様性等の配慮に役立つ	高	
			海に囲まれた日本は船を利用した移動も海外には人気	景色が豊かな船のゆったりとした移動はエクスカージョンに彩りを添える		
			バス移動中はガイドや通訳で地域の解説を行う	地域の特徴や歴史・文化・裏話などを紹介する		
			バスにおける弁当などの食事はハラル対応なども考慮	食の多様性に対応	高	
	学生との連携		学生の参加を通して国際会議の開催意義を理解してもらう	国際会議に関心のある学生は、未来の研究者や主催者へとなる可能性がある		
			ワークショップなど参加者との交流の場は新たな経験となる	〃		
			高校生や大学生をボランティアとして活用する	活動を通して海外参加者と触れ合うグローバル感覚や地域の企業の取組を理解してもらう		
			地域企業との交流を通してリクルートなど就活にもつなげる	より高度な人材を求める企業は国際会議に関わる学生を歓迎する	高	
	飲食やパフォーマンス		交流会やネットワーキングを通して参加者と企業がコミュニケーションを図る	情報交換やビジネスチャンスを得る機会は双方にとって有意義な取組	高	
			交流会の会場内に企業ブースなどを設置し取組をPRする	〃		
			食の多様性を十分に考慮する	ベジタリアン、ビーガン、ハラル対応などを準備し、表示も工夫する	高	
			日本酒などの地酒、地ビール、ワインなどは人気がある	各地域の特産品を用意する	高	
			アルコールの飲み比べ等は、余興として盛り上がる	各地域をより深く理解してもらう機会となる		
			会場に制限がある場合は、キッチンカーなどの活用も検討する	公的な施設は飲食の制限がある場合があり、その場合の工夫方法として役立つ		
			カトラリーは箸と洋食用の両方を用意する	各国からの参加者を考慮する	高	
		試食や即売のコーナーを設けることもアイデアとして有効	お土産として人気の地域特産品がある場合は役立つ			
		参加者同士のコミュニケーションが相互に図れる工夫を行う	知らない参加者の組み合わせになるような工夫を実施する			
		地域の余興などの披露は重要	体験型にするとより満足度が向上する	高		
ガイド・通訳		地域や産業を熟知したガイド・通訳の手配は重要	クオリティーのばらつきがないようにする。マニュアル等あればさらに良	高		
		ガイド・通訳の事前研修は効果が絶大	国際会議の専門性を事前学習することで会議テーマの専門用語を理解し参加者へ説明			
		SNSなどのホットスポットやコンテンツを紹介する	参加者がSNS上で自分の体験を拡散し、より日本の魅力が外部へ発信される	高		
		日本と海外の文化や習慣の違いや裏話を解説する	より日本への興味や関心につながる。再来日も高まる	高		
その他 新規性が高い 効果的な取組	地域における 誘致・運営レベル の強化		サステナブルなMICE運営を行う	SDGsやサステナブルな取組は世界的な潮流で参加者および地域に効果をもたらす		
			日本が得意なポップカルチャーなどを紹介したり、体験に組み込む	コミック・アニメ、キャラクター、音楽など世界に通用しているコンテンツは多数存在する	高	
			気候変動を見える化した取組は参加者にとっても重要な価値がある	〃		
			食の多様性に対応する講習会やメニュー開発を行う	ベジタリアン、ビーガン、ハラル対応などは国際会議誘致にも重要な武器となる		
			LGBTQに対応する講習会や運営の取組を行う	海外の様々な多様性の受け入れ体制を強化する		
			学生等のMICEボランティアを組織化し受け入れ体制を強化する	地域で開催する国際会議の受け入れレベル向上		



こちらのQRコードより

【冊子】国際会議誘致に向けて開催効果を高める支援ツール.pdf

をダウンロードください

各地で開催された実証事業の取組を紹介しています。新たな会議誘致に向けての企画・設計等を行う支援ツールとしてご活用ください（29事例 全82ページ）

(一例)

